

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0191500115), 法人名 (有限会社 ハマダコーポレーション), 事業所名 (グループホームおもひで・桜(1階ユニット)), 所在地 (北海道茅部郡森町字森川町223-21), 自己評価作成日 (令和3年2月17日), 評価結果市町村受理日 (令和3年4月12日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・和風インテリアに工夫し、昔懐かしい雰囲気を残し家庭的な環境を壊さないようにしている。また、日頃から掃除を行い清潔を保ち、コロナウィルス感染予防のため、1日2回以上はアルコール消毒、喚起を徹底している。暖かい時期は外出を企画し行っていたが、外出は自粛し、ホーム内で行事や誕生日会等、月1回は何か企画し楽しんで頂けるようにしている。面会も制限しているため、2階では御家族様に1階の外にあるウッドデッキに居てもらい、入居者様は窓から顔を出し、少しでも会えるようにしている。また、電話や手紙で近況をお知らせしたりし、入居者様、御家族様、職員の繋がりもてるようにしている。地域との交流の機会も減ったが、運営推進会議や認定審査会の参加、他の施設と電話する機会があった時など情報交換している。職員は施設内での勉強会で知識や技術の向上に努め、勉強会以外でも職員それぞれが指導や助言等をし、お互いを高めあう姿勢を持ちケアの向上に努めている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0191500115-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和3年3月8日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 1) 運営の基本事項(環境・介護施設・設備の機能性・至便性等); 名物の桜通り等の自然環境に恵まれ、交通も至便。2階建て2ユニット、居間・食堂を居室が囲み、トイレ・風呂等介護設備も身近で至便な位置にあり、機能的な生活環境にある。
2) 職員の介護への姿勢・態度; 職員は運営の基本事項をわかまえ、利用者本位の支援に専念して、優しく丁寧、よく聴き、観察して、納得ある柔軟な介護対応に努めている。
3) 家族の介護への好感度; 利用者個々の心身の状況に添い、確認し、優しく丁寧に、心・目配りなど真摯な介護対応について、家族は高い信頼を寄せている。
4) 運営推進会議開催状況; 通例は認知症の会、包括支援センター、地域関係者、消防署等議題に応じ関係者の参加の下に、運営内容を詳らかに報告、意向を運営に活かしている。
5) 地域組織・機関等の連携状況; 通例は町内会の一員として交流を続け、行事等を共にするなど、地域ボランティアの導入も含め、事業理解と利用者対応に努めている。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様の人格を尊重し、その人らしさを支えるこの地域で「おもいで」を作っていく理念を掲げ毎日思いを一つにし、実践に繋げている。	職員は、事業理念「人格を尊び、その人らしさに添い、家庭的で穏やかな地域での生活を支える等」の趣意を共有・研修を重ねるとともに、家族とも良好な連携の維持に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に所属し、回覧板と一緒に回したりしている。感染症予防の為、現在は町内ボランティアの来訪は自粛している	町内会の一員として役割を果たすと同時に、いろいろな行事等を共にし、地域ボランティアの協力を得ている。現行は自粛中。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症に悩む方々へ、認知症介護のアドバイスをしたり、相談も随時受け付けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見や要望をお聞きし、サービスの向上を目的とした意見交換をしている。会議の内容は職員間でも共有し、サービスの向上・改善に努めている。	通例は地域関係者、消防関係、包括支援センター等の参加を得て定例に開催。運営内容を報告して参会者の意向等を運営に反映している。現行は議題を送り意向を求めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の介護保険係や地域包括支援センターに相談し、アドバイスを貰ったり、情報を得る等、連携をとり協体制度を築いている。	通例は介護保険係、包括支援センター等の指導・助言を得ている。また利用者関連の窓口との連携も図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングやカンファレンスの際に転倒等のリスクに対して介護上の工夫を話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。3ヶ月毎に身体拘束廃止委員会を行い、委員会が中心となり勉強会も予定している。	身体拘束委員会は定例に開催して、指定基準に示す介護の基本に立ち、事例等の検討結果を定例諸会議で周知に努め、利用者の介護にあたっては尊厳を損ねることのないよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が中心となり、言葉遣いやケアの状況により指導したり、全員で討議している。また、入居者様の身体及び精神状態の細かい変化に気付く様日々観察している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている方はいないが、随時対応できる体制になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分に時間をかけて余裕のある時間で行い、サービス内容等説明し、その都度、疑問点等ないか確認している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	手紙や電話、来訪時等、積極的に働きかけ、気軽に言ってもらえる雰囲気作りをしている。また、信頼関係の構築に努め、意見や要望をお聞きし運営に反映させている。重要説明事項には、受付窓口・責任者の電話番号、第3者機関の相談窓口も提示している。	通例は家族の来訪時での、生活状況の報告、家族の意向に応じた説明に理解を得よう努め、日常の変化には必要に応じた即応的連絡や意見を伺っている。また定例のおたより等によって運営状況や個人の状態を伝え、家族の信頼性は高い。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関しての意見や提案は統括部長や管理者がまとめて伝えている。	定例職員会議等で管理上の方向性を示すとともに、利用者の観察経過・介護対応等、各職員個々の専門的見解・意向を受け止め、組織全体の活性化に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は管理者や職員の努力・勤務状況を把握し、職場環境を整備しようと努力している。また、気分転換できるよう、連休や希望休を取ってもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に合わせた研修に参加してもらい、受講後は報告書提出し、他職員と共有し知識・技術の向上に努めている。また、国家資格受験の応援にも努め、働きながら介護福祉士を受験できる環境をつくっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流会や勉強会等の機会がある時は、意見交換等、サービスの向上に繋げるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居が決まったら、出来るだけ来訪して頂き、居室等全体の雰囲気を見てもらっている。また、管理者が自宅や施設を事前に訪問し、御家族や御本人と話す機会を作り、入居前に不安がないようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居が決まったら連絡を取り合い、御本人と一緒に来訪して貰ったり、自宅訪問に立ち会って貰い、不安や要望等話し合う機会を設け、安心できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者・介護支援専門員は、御本人・御家族に事前に情報収集をし、他サービス事業者や病院からも情報を得て、より良いサービスを提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来る事を活かし、一緒に家事や食事をする、外出する等、共に過ごす家族のような存在になれるよう努めている。また、一方的なケアにならないよう相手の思いや立場を大切にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や手紙、来訪時に日頃の様子を伝え、御家族からの要望もお聞きし、時には入居者様に安心して貰えるよう話をして頂く等、職員と共に入居者様を支えていける環境を築けるよう努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族以外の面会も可能で、馴染みの方との関係を維持できるよう支援している。入居時は馴染みの家具等あれば持ってきて頂いている。	通例は家族の来訪時を最も馴染みある機会と捉えて、意向を伺うとともに、関係の支援に努めている。また、買い物や友人や馴染のある関係にも留意している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の相互関係に配慮し、性格や習慣等、細かく把握し良い関係作りが出来るよう支援している。トラブル時は早急に原因を把握し助言・仲介に入り、双方が不快な思いをしないよう関わっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居し、入院になった方のお見舞いに行ったり、御家族と今後のことを話し合ったり、相談受付等、関係を断ち切らずに保つようになっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	仕草や表情・行動等、様々な方向から思いを汲み取り、困難な方には、御家族から希望や要望、意見を聞き、その方の立場になって検討し支援している。	利用者個々の入所時以降のアセスメントの継続記録等を、職員は共有に努め、日常の言・動・表情等に留意して、思いや意向の把握と理解に努めている。また家族の協力も得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、ご本人・御家族に生活歴を聞き、情報収集をし大きく生活が変化しないよう、個々の暮らしを大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の人格を尊重し、出来る事・出来ない事を把握できるよう観察、記録に残し情報の共有と必要な事を支援し現状の能力を総合的に判断しケアしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の生活状況を申し送りし、日誌や記録に記入している。ご本人、御家族の意見や要望を聞き、カンファレンスを開き現状にあった計画を作成し、変化があった時は計画の見直しを行っている。	介護計画・変更計画作成等にあつては、日常のカンファレンス会議等の記録を基に、計画作成者を軸に家族の意向も含め、課題解決の計画を作成して、家族の理解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の経過記録や日誌に日々の生活の様子を記入し、ケアプラン項目の記入もしているもので、実践や見直しに活かし、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や御家族の希望、かかりつけ医への受診、買い物や送迎等、柔軟な対応を出来る様にしている。様々なニーズに対し、職員間で話し合いサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事で出かける時は、事前に連絡している。仏壇がある方は毎月住職がきてくれる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・御家族が希望する、かかりつけ医が居る場合は継続受診が可能。医療連携している主治医の往診も行っている為、24時間診てもらえる体制も整えている。	個々のかかりつけ医のある場合はこれの支援を基本としている。また近隣の協力医療機関との24時間オン・コールの関係を維持している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携している病院の訪問看護師へ報告したり、月1回の訪問看護日に相談したりし、重度化にならないよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する際は、職員も付き添い、情報提供し今後の方針等、医師や他職員と相談している。お見舞いに行った際等、今後の方向性を相談員と話し合う等、積極的に関係作りをしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	医療連携している主治医とは、24時間体制で連絡・相談が出来る。終末期の際は細かく指示を貰い、出来る事・出来ない事を明確にし御家族に文書による説明・同意を得ている。又、職員間でも方針と情報を共有している。	重度化・終末期対応は、入所契約時の同指針対応に同意を得て、個々の心身の変化に即応して医療機関・家族等と協議して、最適の対応に努めている。日常、近隣の医療機関連携は密度が高い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急蘇生法の講習を職員全員受講している。また、AED設置、緊急マニュアル作成しており、必要に応じて主治医からアドバイスを貰っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防立会いで避難訓練を予定している。スプリンクラー設置している。	防災訓練にあっては、組織の役割・防災施設設備等の点検等を含め、消防機関の指導を得て想定した訓練を行っている。また経験を活かして備蓄等に留意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様を尊重し、言葉遣いや態度に注意している。排泄は職員間で暗号で報告し合いプライバシーに配慮している。	職員は、事業の趣意を共有・研修を重ねて、利用者の個性やその人らしさに沿う介護支援に専念。誇りや人格を損なうことのない姿勢と態度で臨み、家族の信頼を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	状態に合わせた選択肢を選び、入居者様の希望や意見を尊重し自己決定できる環境と働きかけをし、待つ姿勢を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常の会話や表情・体調から思いを汲み取り支援している。希望に添えるよう買い物や外食等様々なことに対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望に添えるよう季節や気温、好みに配慮しながら、お洒落を楽しんでもらえるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に調理をしたり、片付けが出来るようにしている。季節の食材を取り入れたり、行事に合わせた献立、誕生日には好物を取り入れている。	週間の食事献立を計画しており、行事や季節に応じた変化、個々の嗜好等に留意して、皆が楽しく・美味しい食事の時となるよう心掛けている。後片付け等も協働の楽しみとしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量を記入し、不足時は好物を提供したり、補食やゼリーで補っている。また、咀嚼や嚥下機能の状態に合わせて摂取しやすい形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し、毎食後口腔ケアをしている。個々にあった歯科用品を使い、気分や体調に配慮したケアをしている。口腔内の異常や義歯の不具合は協力医に診てもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄を記録し、個々にあった排泄パターンを把握し、トイレサイン等からもトイレ誘導のタイミングをはかり、汚染を少なくし、トイレでの排泄を促している。	排泄支援にあつては、自立支援を基本とし、個々の排泄パターンの共有で支える等トイレ誘導に努めている。なお着衣等も個々に応じて、家族と相談支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄を記録し、水分摂取や乳製品、オリゴ糖等、マッサージ施行に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	同性介助を希望された場合は同性で対応できるよう配慮している。体調に合わせた時間帯で入浴して頂いている。	入浴は同性支援等に配慮しつつ、心身の状況、気分など、穏やかな、安らぎのある入浴となるよう支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠や生活パターンに合わせ、季節・気温にも配慮している。眠れない方は、職員と過ごす等している。昼間は疲労や体調に合わせて休息をとってもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬情報を個人ファイルに保管し、服用している薬の副作用や目的をいつでも確認できるようになっている。薬の変更時は職員間で共有し身体状況の変化に留意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物や散歩、家事の手伝いができる環境を作り、季節に応じた行事、好物の差し入れを持って来てもらう等している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や通院等、個々に合わせた外出支援をし、季節ごとの行事を楽しんで頂けるよう、日頃より外出できるようにしている。	高齢化(平均年齢87.2歳)、介護度3以上7人等に合わせて、近くの桜並木等の自然の変化を楽しみ、また通院・買い物等の機会や施設のウッドデッキから外の景色を眺めるなど、支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理出来ない方は、金庫で預かっている。外出時に出来る方は、会計時に職員げ付き添い支払をしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へ電話したいと希望があった場合は電話出来るようにしている。手紙も希望があれば代筆の支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓から外を眺めたり、天気の良い日はウッドデッキで日光浴したりしている。また、季節に応じて飾り付けをしている。	居間・食堂を囲み居室が配置され、身近にトイレや浴室等が至便な状態で機能的置かれている。居間は季節や行事に合わせた飾り付けが準備されるなど、利用者の活動模様を含めて楽しい雰囲気にある。温・湿・採光等の管理もよく、清潔な環境にある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやイスの配置を個々に合わせ、入居者様同士楽しく会話したり、一人で落ち着いて過ごしたりと思思いに過ごすことができるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたベッドや布団、タンス、仏壇等の家具を持って来て頂いたり、写真や作品を飾る等居心地良く安心出来る部屋になるよう配慮している。	居室づくりは、家族と協力して、利用者個々の馴染み家具・調度品、写真等飾りつけなど、安らぎのある生活を味わえるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には暖簾や表札を掛け分かりやすくしている。共有箇所には手すり、トイレには札をかけている。キッチンでは職員と一緒に安全に家事ができる。		